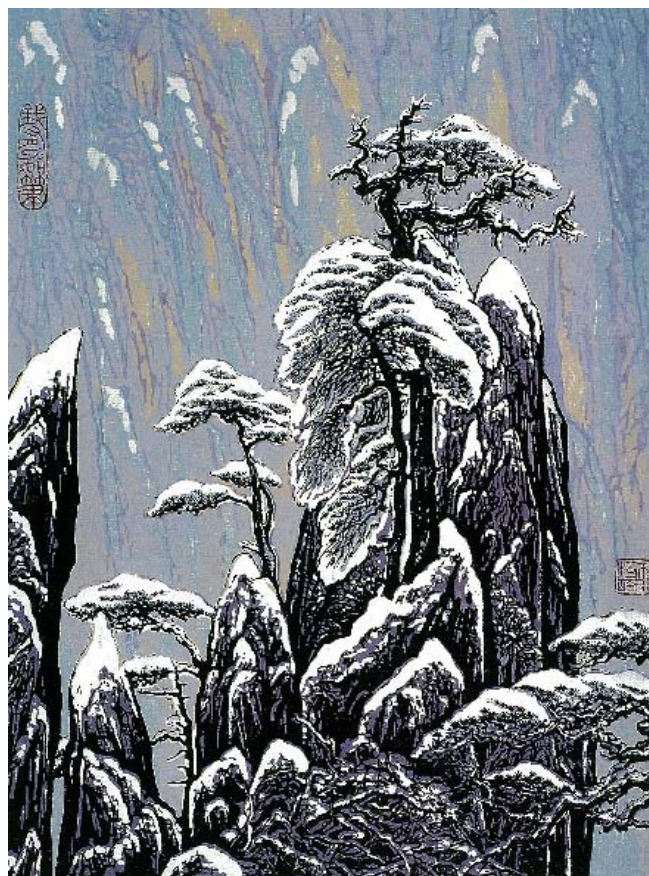


# 会館だより

---

---



2014年 12月号

No. 306

 公益財団法人 日中友好会館

---

---



## 目次

### 行事案内

#### 《日中友好会館美術館》

- ・協力展「‘流’—日本、中国、韓国の絵画 国境、文化、伝統を超えて—

#### 《日中友好後楽会》

- ・お知らせ
- ・新規会員ご紹介

### 活動記録

- ・日中友好ミニコンサートに後楽寮生が出演
- ・後楽会 10月談話会
- ・大田区裏千家同門の会懇親茶会で日本茶道を体験
- ・「JENESYS2.0」中国青年芸術関係者代表団が来日

### ご挨拶

- ・中国外交部より後楽寮の調理師が来日

### 事務局通信

- ・日中学院のご紹介

### コラム

- ・理事長のツイッター

### 会館行事と人の動き

#### 表紙

「黄山 雪後蓬萊」 師松齡（1933—2008） 作

安徽省の黄山をはじめとする風光明媚な景色や人々を描く“徽派”版画は、唐代からの歴史があり、精細で秀麗な芸術的特徴があります。20世紀中頃より、著名芸術家の頼少其をはじめとする現代の版画家たちによって徽派の風格を引き継ぎながら発展させた“新徽派”が生まれ、中国の現代版画界を牽引しています。

※2015年1月～2月、日中友好会館美術館にて、新徽派の代表作家による木版画展を開催予定です。詳細は次号でお知らせします。



## ● 行事案内 ●

### 日中友好会館美術館

#### ◆協力展

#### 「‘流’—日本、中国、韓国の絵画 国境、文化、伝統を超えて—」

会 期:12月12日(金)~12月19日(金)

時 間:10時~17時

\*初日は15時より

開幕式:12月12日(金) 15時より

主 催:東アジア現代画研究会

「流展」は、2009年より毎年開催している日中韓の日本画、東洋画、国画の展覧会とワークショップです。東洋絵画（水墨画）の基盤を持ちながら、それぞれの国の文化背景のもとに変化し確立した絵画は、使われる材料や技術なども異なります。



※展示作品は写真と異なる場合がございます。

本展では、中国から6名、日本から7名、韓国から1名の出展を予定しております。日中韓の若手現代アーティストの絵画作品を展示し、意見交換、交流を行うことで、国を超えて領域を超えて「つくり手」が新しい絵画の可能性を生み出す機会になることを期待しています。また今後活躍が期待される若手の作

品を日本の方に広く紹介し、絵画界の現状を知っていただく良い機会だと考えております。ぜひご来場ください。

【問合せ】日中友好会館 文化事業部

電話: 03-3815-5085

### 日中友好後楽会

#### ◆お知らせ

年の瀬の慌ただしい時節ですので、12月は談話会をお休みとさせていただきます。年明けの行事は下記のように企画しております。

新春談話会: 1月下旬 日時未定  
会館内レストランにて  
(詳細は1月号に掲載)

本年も後楽会活動へのご参加、ご協力、有難うございました。

お身体に気をつけて、良いお年をお迎えください!

(後楽会事務局)

#### ◆新規会員ご紹介

2014年11月ご入会

徳永美智子さん (個人)

#### 【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林、緒方、大竹

電話: 03-3811-5305 FAX: 03-3811-5263

メールアドレス: kourakukai@jcfc.or.jp

## ● 活動記録 ●

### ◆日中友好ミニコンサートに 後楽寮生が出演



二胡と古箏による合奏

10月3日(金)、北区日中友好協会主催の「日中友好ミニコンサート」にて2名の後楽寮生が古箏と二胡の演奏を1時間半にわたり披露しました。

最初に早稲田大学大学院で法律を勉強している孔曉鑫さんが古箏で「漁舟唱晚」、「高山流水」など5曲を演奏、続いて東京学芸大学大学院在学中の田宇さんが「昂」、「Let It Go」など5曲を演奏し、二胡についての紹介などもしました。

最後に二胡と古箏の合奏で「花」、「北国の春」を演奏、来場者は二胡や古箏の音色に魅了され、ときには一緒に口ずさんでいました。アンコールの「ふるさと」では会場の皆さんが一体となって演奏に合わせて大合唱となりました。

今回の観客は北区にお住いの一般区民の方が多く、音楽を通して日中友好をご理解いただけたのではないかと感じました。

北区日中友好協会は1979年に結成され、今年で35周年になります。その間、地域に根差した友好交流活動を行ってきました。毎年、

春節の時期には餃子パーティーも行われ、今年も多くの後楽寮生が招待されました。

今回の「日中友好ミニコンサート」も友好交流活動の一環として去年に引き続きご協力をさせていただきました。今後も引き続きこのような交流を続けていけたらと考えています。

(留学生事業部)

### ◆後楽会 10月談話会

10月8日、東京大学大学院で文化人類学を研究している後楽寮生の施堯さんを講師に迎え、「沖縄と中国福建の民俗の繋がり—風水(フーシー)と爬龍船(ハーリー)—」と題した講義を行いました。

琉球王国時代に沖縄が中国から受けた影響や関係性などを紹介し、次に、船レースの爬龍船と、町づくりやお墓、家の配置に用いられる風水を例に挙げ、中国より伝わった民俗風習がいまでは沖縄古来の風習と融合し、現在も沖縄庶民の生活に根付いていることを、写真や動画を交えながら紹介しました。

また、楽器の変遷について、中国の三弦、沖縄の三線、三味線を、実際に曲を聴きながら違いや相似点を紹介し、分かりやすい説明に聴講者からも好評でした。



講師の施堯さん

### 参加者の感想（一部）

- ・風水、三線など幅広く豊富な知識を余すところなく紹介していただき、大変面白かった。（会員）
- ・素晴らしい。映像や音楽もうまく採りいれられ大変分かりやすかった。（会員）
- ・日本語も発表内容も上手だった。沖縄に興味を持った。（後楽寮生）

講義後の交流夕食会では、会員と寮生との交流が盛んに行なわれ、日本語と中国語が飛び交った賑やかな会となりました。

（後楽会事務局）



### ◆大田区裏千家同門の会 懇親茶会で日本茶道を体験

10月19日に、大田区裏千家同門の会、村上様のお招きにより、後楽寮生10名が、新宿の京懐石柿傳での懇親茶会に参加しました。

村上様のお陰で、私たちは茶の湯の濃茶と薄茶の2つを体験することができました。特に濃茶の体験が素晴らしかったです。

濃茶はお茶事を中心で、茶の湯の伝来時は、濃茶のみで、それも薬として伝わったので、僧侶や武士などが濃茶を飲んでいました。希少なので値段も高く、特権階級の御用達です。



大田区裏千家同門の会の方と参加寮生

今回は裏千家先生たちのご指導の下で、茶の湯のお手前をじっくり拝見して、茶の湯の深遠さを味わいました。

寮生達にとって、お手前の最初の試練は正座することでした。最初は我慢できましたが、時間が長ければ長いほど、足がしびれてきました。本当に我慢できなかった寮生は、仕方なく胡坐をかきました。

濃茶の濃厚さは想像以上でしたが、先に頂くお菓子で甘くなった口の中を、濃い抹茶がスッキリとさせてくれました。濃茶を飲んだ後はお茶碗を鑑賞しました。

その後は薄茶の体験でした。薄茶席は肅然

とした雰囲気を感じた濃茶席と違い、和やかな雰囲気を感じました。濃茶と薄茶を体験した後、点心席に移動し、美味しいお弁当を食べました。最後は村上様のご案内の下で、陶器品の展覧会を興味深く拝見しました。

今回の懇親茶会を通じて寮生は茶道の魅力をしみじみと感じ、日本の伝統文化への理解も深まりました。

このような場を広げて、日中両国の理解を深め、日中友好関係の益々の深化を祈念しております。

(後楽寮寮生 孫振)



## ◆「JENESYS2.0」 中国青年芸術関係者代表団が来日 東京・京都にて一行62名が 芸術をテーマに活動

2014年10月14日から10月19日までの日程で、「JENESYS2.0」中国青年芸術関係者代表団(団長=王占起・中国日本友好協会 政治交流部部長)計62名が来日した。本団は、中国芸術界で将来を嘱望される青年を中心として構成され、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘された。

代表団は、東京と京都にて芸術関連施設や芸術大学を訪問し、日本の青年と交流したほか、能楽の紹介、茶道文化の体験、日本の社会や文化に関する視察など、さまざまなプログラムに参加した。



矢来能楽堂で観世喜正氏の手本を見ながら  
能楽を体験する団員

### 東京にて日本の演劇やアニメの魅力に触れる

東京では、矢来能楽堂を訪問し、能楽の紹介を受けた。能楽師の観世喜之氏・観世喜正氏に温かく迎えられ、分かりやすい解説に耳を傾けるとともに、代表者が舞台上がり、動きや装束の体験をさせてもらった。また劇団四季ミュージカル『マンマ・ミーア!』鑑賞では、多くの観客と一緒に、音楽に乗って舞台との一体感を味わったほか、終演後に出演者との交流会が行われ、直接、舞台の感想

を述べたり、舞台俳優の訓練やリハーサルなどについて熱心に質問し、日本のミュージカル公演への関心を高めたようだった。このほか、開館以来、不動の人気を博している三鷹の森ジブリ美術館を参観し、心温まる作風や独特の世界観に目を奪われていた。

### 京都で伝統と革新にあふれた 文化都市の雰囲気を感じる

京都に移動した一行は、茶道裏千家による茶道文化の紹介を受けた。茶道史料館の特別展「茶の湯の名碗」にて、なかなか目にするのできない茶碗を間近に見たほか、呈茶体験や茶室見学を通じて、作法の美しさやおもてなしの心、茶室の装飾など、中国から伝わって、日本で総合芸術として発展した茶道文化に触れることができた。京都市立芸術大学では、絵画やデザインなど、さまざまな実技の授業で、学生が創作する様子を見学した。伝統的な技法の習得や、独創性にあふれる作品の制作に励む様子を、興味深く参観するとともに、芸術に携わる者同士の、言葉を越えた交流が行われた。



京都市立芸術大学の版画の実技授業にて  
学生から作品の説明を聞く

京都ではこのほか、二条城や清水寺、三十三間堂、伏見稲荷大社を訪れ、また東京にて、皇居二重橋、浅草寺、東京タワー、お台場を訪れ、日本の社会や文化、歴史、クールジャ

パンなどについて理解を深めた。団員からは、「お茶や伝統芸能、伝統的な建築物、仏教美術など、中国から伝わった文化が日本で大切に継承され、独自に発展しているところが素晴らしい」「スタジオジブリの作品や、京都市立芸術大学で見た現代アート作品の根源には、日本の伝統文化や特有のスタイルが息づいていて、世界中の人々を魅了する力となっていることに気付かされた」といった感想が聞かれた。

6日間の充実した日程のなか、団員は日本の社会や文化芸術について理解を深めるとともに、自身の専門においても、視野を広げる機会を得ることができた。本団の受け入れにご協力下さったご関係の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)





## ● ご挨拶 ●

### ◆中国外交部より 後楽寮の調理師が来日

中国外交部から後楽寮の調理師として、  
閻虎さんをお迎えしました。



私は中国外交部から派遣されました閻虎と申します。以前はアフガニスタンとインドの大使館で働いたことがあります。

今回日本へ赴任し、日中友好会館の後楽寮で皆さんの食事を作ることになりました。私の趣味は旅行、スポーツ、グルメです。

在職中はいろいろな事を経験し、日本の文化や慣習など数多くの交流を通じて中日友好に尽力したいと考えています。

新しい環境、新しい生活、新しいスタートで心を込めて毎日を肌で感じたいと思っています。

今後ともどうぞよろしく申し上げます。



### ホールの貸し出しについて



大ホール

日中友好会館地下1階にある大ホールと第一会議室は、集会やイベントのスペースとして貸し出しており、主に会議やセミナー、展示会等でご利用頂いております。

料金や予約状況、お申し込みの方法などは、当会館ホームページでご覧いただけますので、お気軽にご覧ください。

皆様のご利用をお待ちしております。

<http://www.jcfc.or.jp/shisetsu/hall>



第一会議室

### 【お問合せ】

公益財団法人 日中友好会館 事務局  
TEL : 03-3811-5317  
FAX : 03-3811-5263



## ● 事務局通信 ●

### ◆ 日中学院のご紹介

日中学院は、中国語・日本語の学習機関です。

中国語を学ぶコースは、専門課程の本科・本科研究科と学生・社会人・主婦・定年退職された方が週1~3回入門から通訳まで70を超える様々な講座から学ぶ別科、また企業派遣やプライベートレッスンがあります。日本語科は毎年4月中国人留学生を受け入れています。現在約600名の学生が中国語、日本語を学んでいます。



中国語日本語の専門教育を行っています

教職員は70名ほどが在籍し、学校運営、教学、学生募集・管理、受付、問い合わせ対応、図書管理等それぞれの業務に当たっています。その中でも学生の活動サポートは大事な仕事の一つです。

本科、日本語科は、入学式から始まり、都内見学、合宿、交流会、文化祭、スポーツ大会、弁論大会、卒業式と1年を通じて交流活動が盛んです。特に春の合宿と秋の文化祭は大きなイベントです。合宿では、合宿先の手配、学生が組織する合宿委員会と学習会、交流会、スポーツ交流等の詳細を打ち合わせます。文化祭では、講師は各クラスが発表する中国語劇、日本語劇の脚本添削、演技・発音指導や模擬店の仕込み等も行います。また職員は当日の学内展示、舞台・模擬店設置、終了後の後片付け等を手伝います。



文化祭での中国語劇



別科合同朗読大会

別科でも年に1回合同朗読大会を開催しています。今年は初代学院長倉石武四郎先生没後40年にあたり外部の方を招いて「倉石賞記念朗読大会」を行い、総勢43組190名の方が日頃の成果を発表し、大盛況でした。

日中学院の教職員の仕事は多岐にわたりますが、学生たちと直接交流でき、学生の成長を実感できることが一番の喜びです。これからも専門的な中国語、日本語教育に努め、真摯に学生と向き合い、日中両国の架け橋になる人材の育成に寄与したいと思います。

## ● コ ラ ム ●



## 理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

11月7日、日中両国政府は両国関係の改善に向けての合意文書を発表し、その上で11月10日、安倍総理と習近平国家主席との会談が実現した。この4項目の合意文書と両首脳の間談について、日中両国のメディアで様々な見解、評価が見られるが、多くは冷静なトーンで本格的な関係回復に向けた第一歩と論評している。私は、この度の両国合意と首脳会談を素直に喜びたい。両国関係は大事だと言う世論を背景に、冷え切った両国関係は改善しなければならないとの信念で多大な努力をされた両国政治家、外交当局関係者に敬意を表すると共に、中国との交流事業に携わる我々は、日中両国更には国際社会の将来の為に自信と楽観を持って事業を推進しなければならないと気持ちを新たにしたい。

最近、「裏から見た支那民族性」(笠井孝著、日本外事協会発行、昭和10年刊)なる冊子を読んだ。著者のプロフィールは分からないが、昭和初期に中国で生活していた人物と思われる。中国には社会があつて国家なし、日支共存共栄はありえない、匪賊の国、統治者は無力・不誠実、実利主義、拝金主義、賄賂の国、面子の国、忘恩、残忍・冷酷・・・と言ったキーワードで当時の中国及び中国人についての著者の見方が記述されている。当時日本の一部にこのような見方が広がったことが日中戦争を引き起こした背景にあつたのではないかと思ひ、同時に昨今の日本のメディア、言論界の風潮を顧みて慄然たる思ひがした。

今日、日本では、一党独裁、人権・民主・法治、少数民族、環境・衛生、腐敗・汚職、経済格差、不動産バブル等をテーマにして中国の社会システムの脆弱性や不合理を説明する文章が溢れている。中国は「怖い」、「やばい」と感じている大学生が少なくないとの話も聞く。日本のメディアや研究者に指摘されるまでもなく、中国の為政者と多くの国民は、これらの難しい課題を十二分に承知しており、その改善と解決のために懸命に努力をしていることを忘れてはならない。日本の識者は、もっと包容力のある視点で中国を観察し、時には厳しい指摘もしながら、友人、良き隣人との基本姿勢で情報を発信して貰いたい。例えば、私が家庭ごみの出し方を間違えて注意されるのは当然だが、自分自身が悩んでいる家庭内不和を井戸端会議の話題にされることは真に不愉快である。中国でも、抗日戦争ドラマが次々と放映され、日本の右翼台頭、軍国主義復活、放射能汚染、中国台頭への不快感、アベノミクスの失敗等のメディア報道が多いと聞いている。双方とも断片的観察や先入観に基づく記事で相手国のマイナスイメージを増大させることは止めてほしい。



## 会館行事と人の動き 10/1～31

### ● 会館行事

- 9/26～10/19 ▶ 第24回中国文化之日展覧会「印象青海—青海省タンカ芸術展」  
(同展イベント 10/1 国慶節ミニコンサート〈古箏〉  
10/17 「チベット族の歌と伝統楽器演奏」)
- 10/2 ▶ 後楽会中国旅行写真交換会
- 10/2、10/16 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 10/8 ▶ 後楽会談話会・交流夕食会「沖縄と中国福建の民俗の繋がり」(講師:施堯)
- 10/9 ▶ 後楽寮 閻虎調理師 来日
- 10/14～10/19 ▶ 「JENESYS2.0」中国青年芸術関係者代表団 来日(10/14 同団歓迎会、10/19 歓送報告会)
- 10/17～10/19 ▶ 第24回中国文化之日公演「印象青海—青海省民族歌舞団来日公演」  
(10/17 小学生・保育園児招待公演、10/21 藤沢市巡回公演(湘南台文化センター))
- 10/20 ▶ 後楽寮新入寮生説明会
- 10/26～11/3 ▶ 「JENESYS2.0」2014年度中国高校生訪日団第1陣 来日(10/27 同団歓迎会)
- 10/29～11/3 ▶ 貸美術館催事「第12回東瀛印社篆刻展」

### ● 来館・訪問・面会

- 10/9 ▶ 東京大学大学院 吉川雅之准教授 往訪(武田理事長、荒井常務理事)  
▶ 東京外国語大学4年 中山一貴氏、大熊麻祐子氏 来館(武田理事長、荒井常務理事)
- 10/13～10/16 ▶ 王中国代表理事 荒井常務理事 中国出張
- 10/13 ▶ 中国日本友好協会 訪問(王秀雲 副会長 主催 歓迎宴)
- 10/14 ▶ 中国外交部 訪問(薛劍アジア司日本处处长 他との面会)  
▶ 国務院新聞弁公室 訪問(丁小鳴 副局長 他との面会)  
▶ 中国社会科学院 訪問(王鐳 国際合作局局長 他との面会)  
▶ 中華全国青年連合会 万学軍 主席助理 他との面会
- 10/15 ▶ 中国文化部 訪問(張愛平 对外文化連絡局 局長 他との面会)  
▶ 中国教育部 訪問(方軍 国際合作交流司 副巡視員 他との面会)
- 10/16 ▶ 在中国日本国大使館 訪問(山本恭司 公使 他との面会)
- 10/15 ▶ 放送大学 苑復傑教授 面談(武田理事長)
- 10/24 ▶ 東京外国語大学 三宅登之 教授 来館(武田理事長、荒井常務理事)
- 10/30 ▶ 日本中華総商会 巖浩会長 他 懇談  
(武田理事長、王中国代表理事、荒井常務理事、小島事務局長)
- 10/31 ▶ 中国国際航空 羅勇支店長 面談  
(武田理事長、王中国代表理事、荒井常務理事、小島事務局長 他)

### ● 行事参加、その他の活動

- 10/1 ▶ 横浜華僑総会国慶節祝賀会(武田理事長、荒井常務理事)
- 10/3 ▶ 北区日中友好協会主催 日中友好ミニコンサート(後楽寮生)
- 10/15 ▶ 東アジア共同体評議会国際会合(武田理事長:パネリストとして出席)
- 10/19 ▶ 大田区裏千家同門の会懇親茶会(後楽寮生)



発行

2014年12月1日発行 第306号

公益財団法人 **日中友好会館**

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号

電話(03)3811-5317 FAX(03)3811-5263

<http://www.jcfc.or.jp/>